



Title	月刊DRF 第25号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Issue Date	2012-02-01
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/73510">http://hdl.handle.net/2115/73510</a>
Type	periodical
Note	事務局: 北海道大学附属図書館; <a href="http://drf.lib.hokudai.ac.jp/">http://drf.lib.hokudai.ac.jp/</a> で公開したもの
File Information	DRFmonthly_25.pdf



[Instructions for use](#)



# 月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第25号

No. 25  
February, 2012

【特集1】DRF meets RSP

【特集2】共同・共用リポジトリ最新事情

・あなたのお仕事何ですか？



## 特集1 DRF meets RSP

1月19日(木)、企画ワーキンググループでは、JISCプロジェクトのRSP (Repositories Support Project) プロジェクトコーディネーターであるJackie Wickhamさんをお招きし、英国におけるリポジトリの研修事業についてお話を伺い、意見交換を行いました。会議の様子をレポートいたします。

レポート: 東京歯科大学 阿部潤也



上田大輔WG主査(広島大学)より、DRFの活動状況を報告しました。Jackieさんからの感想、質問はこちら。興味を持つポイントは日英に差はないようです。

- スゴロク\*を使いたい、紹介したい!
- 寸劇も興味深い!
- 演じているのは研究者? 図書館職員?
- DRF資金の獲得はどうしてるの?



\* DRF地域ワークショップ(関東地区) DRF-Ookayama (平21.2.9開催) 参照  
[http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drif/index.php?plugin=attach&pcmd=open&file=Happy\\_IR\\_Life\\_Ver.1.0.pdf&refer=DRF-Ookayama](http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drif/index.php?plugin=attach&pcmd=open&file=Happy_IR_Life_Ver.1.0.pdf&refer=DRF-Ookayama)

## RSP ってどんなプロジェクト?

REPOSITORIES SUPPORT PROJECT

2006年9月から始まったノッティンガム大学ほか4校がパートナーシップを組んだプロジェクト。リポジトリの推進、コンテンツの増加、大学内のシステムとの統合、優良事例の普及などを目的としている。資金提供はすべてJISCから受けている。2009年4月よりセカンドフェーズ。RSPチームによる大学への個別訪問(最近6か月で3校を訪問)、電話やメールでの質問受け付け、再利用可能な広報活動に使える資料や技術資料の提供、パディスキーム(何かの課題を抱えた人に、内容に応じた先達をマッチングして助言を得られるようにする仕組み)の提供、研修やイベントの開催等を行う。

<http://www.rsp.ac.uk/>

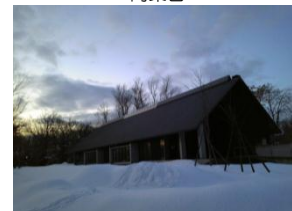
英国ではリポジトリマネージャーとして雇用される場合が多いため、新任担当者の育成から中堅担当者のスキルアップ等へと焦点がシフトしつつあるとのことでした。異動があり、常に新任担当者のいる日本とは事情は異なるようです。RSPのこれまでの経験から多くのヒントを得ることができました。来年度のDRF研修事業にご期待ください。



会議の様子



一同集合



雪に覆われた北大遠友学舎



今後の交流を誓い握手

## RSPの代表的な3タイプのイベントプログラム (ご紹介いただいた内容の一部です)

**テーマ別ワークショップ**  
これまでにワークショップを39回開催しています。例えば「有効な広報活動のためのコミュニケーションスキル」というワークショップは年1回、これまでに2回開催しました。あるセッションでは、研究者がリポジトリ登録することは重要である、ということ短時間で伝える練習をしました。また、研究者との会話の中で対立することがありますが、コミュニケーションの専門家から戦略を学ぶことで、合理的に対応できるようになりました。研究者からどのように反論されたかを共有するセッションも行い、どのように対処できるかを提案しました。

**テーマ別検討会議**  
英国では「研究活動のためのリポジトリ」と「研究成果を公表するためのシステム(CRIS\*)」の関係が大きな課題となっているので、「リポジトリとCRIS」という会議を行いました。それぞれに関わる人やシステムがどうしたらうまく協働できるかをテーマとし、これについてのプレゼンテーション、複数の機関にまたがるようなJISCのプロジェクトの紹介、それぞれの機関の事例紹介、CRISのサプライヤーによる商用ソフトの紹介などをしました。

\* 研究者総覧(Current Research Information Systems[CRIS])

**サマースクール等**  
郊外の小宿を借り切り、2泊3日で行う合宿形式のワークショップです。プレゼンテーションやグループワークの他に個別にアドバイスを求めるセッションも企画しています。GreenとGold、どちらのOAが長期的に成功するか? というディベートも懇親会のお楽しみ企画として行いました。また、あえて反対の方法を考えるという問題解決の手法を用いたディスカッションも実施しました。どうしたらOAを増やせるか? に対して、どうしたらOAを悪化させることができるか? ということを考えてもらいます。アイデアが出尽くしたところで、逆を考えることで、本来の問題に対するクリエイティブな解決策を見出すことが出来るのです。



発表資料はDRFウェブサイト  
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drif/index.php?DRF%20RSP%20meeting>

## 新潟県地域共同リポジトリ

NiRR: Niigata Regional Repository

<http://nirr.lib.niigata-u.ac.jp/>

参加機関数: 計22機関(大学・高専 20+ ※学術機関等 2)  
 新潟大学 / 長岡技術科学大学 / 上越教育大学 / 長岡工業高等専門学校 / 新潟県立大学 / 新潟県立看護大学 / 長岡大学 / 日本歯科大学新潟生命歯学部 / 敬和学園大学 / 国際大学 / 新潟経営大学 / 新潟国際情報大学 / 新潟産業大学 / 新潟薬科大学 / 新潟工科大学 / 新潟青陵大学・短期大学部 / 新潟医療福祉大学 / 明倫短期大学 / 事業創造大学院大学 / 新潟リハビリテーション大学 / ※佐渡市教育委員会・佐渡学センター / ※新潟県内学協会・研究会

「新潟県地域共同リポジトリ(NiRR)」は、新潟県内の大学や学術機関等の学術情報を世界に発信することを目的として、平成21年7月に運用を開始しました。現在のコンテンツ数は約1万5千件です。

NiRRは、大学に限らず広く県内の学術諸機関に参加を呼びかけるとともに、参加機関同士の連携を強化し、新潟からの学術情報発信に取り組んでいきます。



## 福井県地域共同リポジトリ

CRFukui:

Community Repository of Fukui

<http://crf.lib.u-fukui.ac.jp/>

福井大学 / 福井県立大学 / 福井工業大学 / 仁愛大学 / 仁愛女子短期大学 / 敦賀短期大学 / 福井医療短期大学 / 福井工業高等専門学校 / 福井県立図書館 / 福井県文書館

福井県地域共同リポジトリは福井県内の大学(短大を含む)7校、高専1校すべてに参加していただいています。加えて、福井県立図書館、福井県文書館に参加していただき、収録対象を学術成果物だけでなく、貴重書、広報誌等の刊行物等も掲載し、地域全体の特徴をアピールすることを目的としています。今後も大学等以外の機関の参加の拡大を目指します。

## 沖縄地域学リポジトリ

ORION:

Okinawa Repository Integrated Open-Access Network

<http://okinawa-repo.lib.u-ryukyu.ac.jp/>



沖縄大学 / 沖縄県立看護大学 / 名桜大学 / 沖縄県教育庁文化財課史料編集班 / 沖縄県公文書館 / 沖縄農業研究会 / 琉球医学会 / 沖縄県大学図書館協議会 (ハーベストのみ: 法政大学沖縄文化研究所、ハワイ大学沖縄コレクション)  
 参加機関数: 計10機関(うち2機関はハーベストのみ)

沖縄地域学リポジトリは、沖縄県内に所在する機関、団体、及び県外沖縄研究機関等の学術成果物などを電子的に蓄積・保存し、広く世界へ発信するためのものです。琉球大学附属図書館が幹事役となり、2010年3月に正式公開後、年々参加機関を増やしています。じわじわと広がるリポジトリを目指して、今後も地道な広報活動を続けていきます。



地域の共同リポジトリは、引き続きその勢いを増し、現在、10以上の地域で運用・構築が行われています。今回はその地域パワーをのぞいてみましょう。誌面の都合上、すべてを紹介しきれませんでしたので、詳しくはShaReプロジェクトのホームページをご覧ください。

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/list.html>

## 特集2 共同・共用リポジトリ最新事情



<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

## 広島県大学共同リポジトリ

HARP (Hiroshima Associated Repository Portal)

呉工業高等専門学校 / 尾道大学 / 広島国際大学 / 広島国際学院大学 / 広島女学院大学 / 広島工業大学 / 広島市立大学 / 広島文化学園大学 / 広島文教女子大学 / 広島経済大学 / 日本赤十字広島看護大学 / 比治山大学 / 県立広島大学 / 福山市立大学  
 以上、14機関(2012年1月末現在)

運営主体は広島県大学図書館協議会です。広島大学の呼びかけにより2008年4月にスタートしましたが、現在は公・私立大学中心の委員会です。業務を進めており、広島大学はサポートに徹しています。

Face to faceをモットーに、勉強会やMLでの情報交換・助け合い等担当者間のコミュニティ活動が活発で(自称ローカルなDRF!?)、各機関の得意分野を活かしながら成長を続けています!



## 山口県大学共同リポジトリ 維新

Yamaguchi prefecture area Scholarly Hoop of Integrated Navigator

<http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口県立大学 / 下関市立大学 / 徳山大学 / 梅光学院大学 / 山口福祉文化大学 / 下関短期大学 / 宇部工業高等専門学校 / 東亜大学 / 徳山工業高等専門学校 / 山口大学

「山口県大学共同リポジトリ 維新」は、平成20年度に山口県大学図書館協議会の事業として、国立情報学研究所の支援を受け、5機関で開始しました。平成21年10月に正式公開し、現在は10機関が参加する共同リポジトリです。

「維新」は、ページレイアウトやメタデータ設計を参加機関毎に設定できる機関独立型の共同リポジトリですが、全機関の公開コンテンツの横断検索も可能としています。今後は、未参加の機関にも参加を呼びかけつつ、成果物の充実を図り、県内の学術資源の更なる発信に努めていきます。

## 愛媛地区共同リポジトリ

愛称: IYOKAN

YOKAN Institutional Repository: the EHIME area

愛媛地区共同リポジトリ

<http://iyokan.lib.ehime-u.ac.jp/>

愛媛大学 / 松山東雲女子大学 / 松山東雲短期大学 / 愛媛県立医療技術大学 / 愛媛女子短期大学(2012年4月~ 環太平洋大学短期大学部)  
 参加機関数: 計5機関

愛媛県大学図書館が管理・運営する、愛媛県内の大学等が共同で利用できる機関リポジトリです。2011年4月より正式運用を開始したばかりで参加機関もまだ少ないのですが、愛媛地区の学術研究成果、教育動向が把握できるプラットフォームとなることを目指しています。



鹿児島県学術共同リポジトリ

Kagoshima Academic Repository Network

<http://karn.lib.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島県学術共同リポジトリ  
 鹿児島県学術共同リポジトリとは  
 参加機関  
 メーリングリスト  
 運営管理  
 運用設計  
 システム  
 著作権  
 リポジトリ委員会資料  
 広報  
 連絡先  
 お問い合わせ先  
 リポジトリ関連情報  
 リンク集  
 SCPL学術協会著作権センター  
 SHERPA/ReMeO

お知らせ  
 鹿児島県学術共同リポジトリ  
 鹿児島県学術共同リポジトリ  
 お問い合わせ先  
 鹿児島県学術共同リポジトリの企画

鹿児島大学 / 鹿児島国際大学 / 志学館大学 / 第一工業大学 / 鹿児島県立短期大学 / 鹿児島国際大学短期大学部 / 鹿児島工業高等専門学校  
 参加機関数: 計7機関

鹿児島県学術共同リポジトリの母体は「大学地域コンソーシアム鹿児島」内の「地域共同リポジトリ事業部会」です。共同リポジトリサーバは鹿児島県立図書館に設置して平成23年度末運用開始に向けて現在構築中です(システムはDSpace1.6.2)。鹿児島県学術共同リポジトリは、鹿児島県内の大学等で生産される学術的生産物を積極的に発信し、学術情報の流通を促進するとともに、地域社会発展のデータベースとしても活用されることを目的としています。

今後は、まず運用を軌道に乗せるとともに鹿児島県大学図書館協議会参加館の全ての参加を目指しながら、将来的には県内公共・民間学術機関の参加も視野に入れています。

DRF参加館の皆さま、これからよろしくお願ひいたします。

>>担当者情報ページ <http://karn.lib.kagoshima-u.ac.jp/~kcr/repo/>

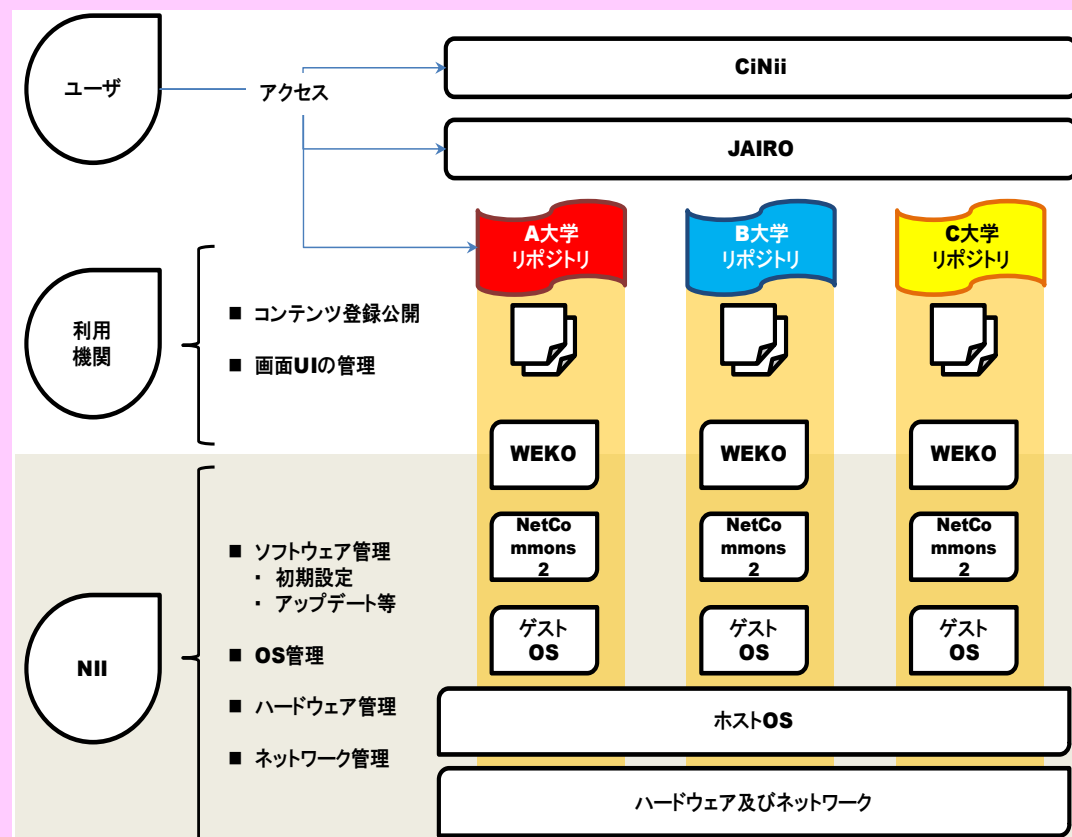
<https://community.repo.nii.ac.jp/>

サイトリニューアルのため、一時停止予定 2012.1.30(月)~2.6(月)午前

## JAIRO Cloud

(共用リポジトリサービス)

国立情報学研究所(NII)は、平成24年度よりJAIRO Cloud(共用リポジトリサービス)を運用開始します。当面は機関リポジトリを新たに構築する機関を対象として、NII開発の機関リポジトリソフトウェアWEKOをベースに構築したシステム環境を提供します。システムの心配は不要になり、コンテンツ登録に集中できます。申請は随時受付中(1月時点で約50機関からの申請)。詳細は、コミュニティサイトへ。



あなたの  
お仕事  
何ですか？



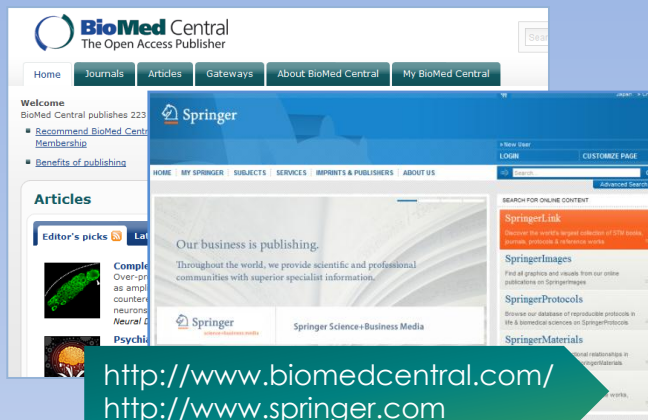
# BioMed Central (シュプリンガー)の オープン・アクセス・マネージャーです



2000年に設立した生物・医学系オープン・アクセス(OA)ジャーナル専門の出版社であるBioMed Central (BMC、バイオメド・セントラル)は、2008年、STM(科学・技術・医学)分野の国際的な出版社であるシュプリンガーの傘下に入りました。2011年より、日本でもOAビジネスへの本格的な取り組みをスタートしました。

オープン・アクセス・マネージャーとしての私の任務は、日本からのOAジャーナルへの投稿や日本発OAジャーナルの出版を増やすだけでなく、研究機関や図書館、研究費助成機関など関係者の皆さまと連携しながら、日本におけるOAビジネス全般を推進することです。

●● シュプリンガー・ジャパン **石井 奈都 さん** ●●



## 仕事をしてよかったと思うことは？

ここ10年ほどの間に世界的に大きな盛り上がりを見せているOAという動きを肌で感じつつ、実際の活動に参加できるというのが非常にエキサイティングです。ビジネスとしてはまだまだ始まったばかりの日本のOAを、どうやったらもっと開花させられるかを考えるのは、大変ではありますがやりがいがあります。また、さまざまな活動を通じて、研究者のかただけでなく学協会や図書館関係者のかたなど、異なるコミュニティの皆さまと交流ができるのも魅力です。

## 今後の展望は？

何しろOA自体がもはや止めることのできない時代の趨勢なので、可能性は無限大です。BMCジャーナルへの投稿は日本からのものも含め増え続けていますし、PLoS ONEの成功なども相まってOAへの注目度も俄然高まっています。OAジャーナルの数自体も増加していますが、こうした中でいかにジャーナルの質を確保していくかというのはOA出版社としてひとつの課題になると思います。また、日本全体のOAの推進には、先に書きましたとおり研究機関や図書館、研究費助成機関などとの連携が欠かせません。さまざまな機会を設けて議論を重ねていきたいと思っています。

## 苦勞していることは？

ときどき、シュプリンガー(=従来の購読型)とBioMed Central(=OA)との間で板挟みになっているような気がするんです(もちろん冗談です！)。

## リポジトリ・OAの活動についてひとこと

グリーンとゴールドという色の違いはあっても、学術情報流通を通じて研究活動を促進するという意味で、両者は切っても切れない関係だと思っています。具体的にどういったパートナーシップを結んでいけるのか、一緒に考えていけたら幸いです。

### 第5回 SPARC Japanセミナー「オープンアクセスメガジャーナルの興隆」

2012年2月29日(水) 13:00-17:00 国立情報学研究所・12階会議室

講演: Peter Binfield (PLoS ONE) "PLoS ONE and the Rise of the Open Access Mega Journal"

司会: 近藤喜和 (DRF, 奈良先端科学技術大学院大学) 話題提供: 西菌由依 (DRF, 鹿児島大学)

パネリスト参加: 大澤類里佐 (DRF, 筑波大学) 企画協力: DRF

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2011/20120229.html>

### ワークショップ「研究者と論文とを結びつけるために～研究者IDサミット2～」

2012年2月14日(火) 13:30-17:00 大阪市立大学 学術情報総合センター

[http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/kura/nayose\\_ws/2011.html](http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/kura/nayose_ws/2011.html)



次号  
予告

【特集1】平成23年度DRF活動報告  
【特集2】SPARC Japanセミナー参加記

編集後記: 特集2&あなたのお仕事、お寄せいただいた内容を一旦先に拝見してワクワクしました。複数の機関をOAで「つなげる」「つながる」取組を披露して下さった皆様に、心より御礼申し上げます。(AbMon)

月刊DRFでは、みなさまからのお便りをお待ちしています。 [gekkandrf@gmail.com](mailto:gekkandrf@gmail.com)

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf/> 月刊DRF第25号 平成24年2月1日発行 デジタルリポジトリ連合